

しまなみ農業だより

地域ぐるみで取り組む 鳥獣対策（上弓削）



ここ2年ほど愛媛大学と共同して、弓削島上弓削地区でイノシシ調査を続けてまいりました。この地区には大きな水場が2か所あり、おそらく上流で水を飲み、下流の集落に近いところでぬた打ちをしていることがわかりました。

特に通称「うわいけ」の堤防下の湿地は使用頻度が高く、ワナを仕掛けられるポイントも少ないことから、この地点をぐるっと囲み、イノシシにぬたばとして使わせない作戦を立ててみました。去る2月25日、有害獣捕獲隊のメンバーに加え、地区の有志の方々、総勢35名に参加していただき、設置作業を行いました。

今月はこのプロジェクトを紹介します。

うわいけ周辺の イノシシ行動パターン

（図1）は、過去2年間の暗視カメラ等による観察から割り出したイノシシの行動パターンです。

谷の最奥部のため南北とも山林に囲まれており、どちらからもイノシシが出没しています。

特に南側は、池からの水路があって本来障壁となり、作業道の橋を渡って集落へ降りてくるのですが、池下のぬたば付近では、水路を直接飛び越える姿がたびたび捉えられていました。

実証圖の概要

イノシシがこの地点へ入りするのは先の水路ポイントと、反対側の池堰堤と元簡易水道施設の間の茂み、下側のグラウンドと水路の間の小道、堰堤上の竹藪から降りてくる、つまり四方八方です。

そこで（図2）のような囲い柵を敷設しました。全線に波トタンの目隠し、地面は抑草シートを敷き少しでも管理が楽になるようにし、侵入の多いところは特に頑丈にしました。

ぬたば近くにはまだ管理されている樹園地がありますので、出入り口を3か所設けています。

行動パターンは変化するのか

資材購入、設置作業には上島町をはじめ地区の大勢の方にご協力いただきありがとうございました。さすがに皆さん、防護柵の設置経験が豊富なためずいぶんはかどり、予定時間内にすべて終了しました。作業完了直後の1週間は、もちろんイノシシの柵内への侵入はなく、びっくりしたのか従来の出入り口付近でも姿は見られませんでした。

今後イノシシの行動がどう変化するのか追跡調査をし、もしもう1か所の水場へ移動するようならそこで捕獲圧を高めたいと考えています。



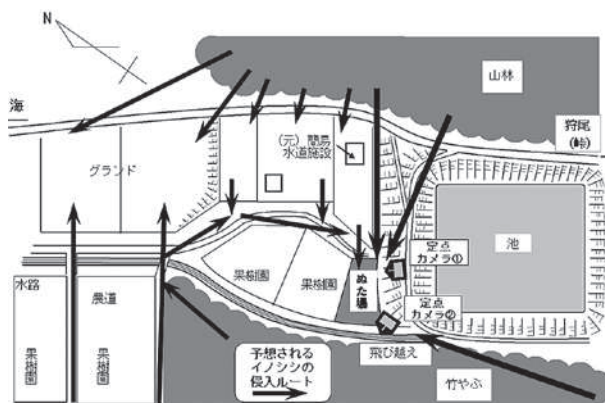
▲みなさんお世話になりました

◆次月はマダニについて◆

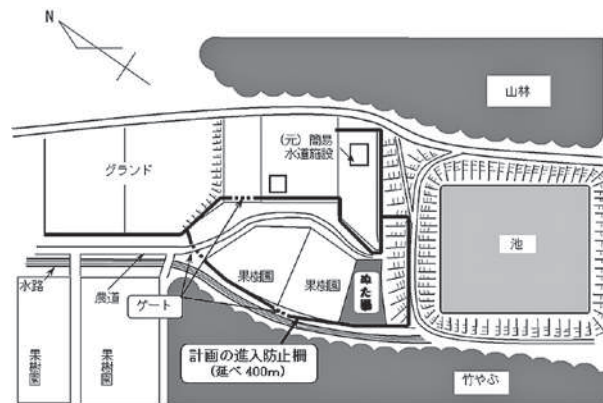
今年2月以降、マダニに刺されたことによる新型ウィルス感染での死亡例が次々と報道されています。

生名や弓削の方は、平成21年7月の講習会にてマダニについて触れてありますので、復習してみてください。

来月は本稿にて取り上げたいと思います。



▲（図1）ぬたば周辺のイノシシ行動パターン



▲（図2）実証圖の見取り図